

前号は、博物館実習Ⅰの様子 in 明石組を見ていただきました！
本号では、前号に引き続き會田先生組と、内山先生組の様子を紹介します！

博物館実習Ⅰの授業の様子 in 會田組

會田組では、大津絵の歴史について学んでいます。大津絵として描かれた内容の変遷(仏画から世俗画へと移り変わった歴史、手描きでの製作であったものが、型絵・ハンコを使った製作方法に変化していったことなど)を、書籍や図録を参考にご説明いただきました。

また、井原西鶴作「好色一代男」で大津絵が登場していること、松尾芭蕉の残した「大津絵の筆のはじめは何仏」という俳句から、大津絵が幅広い層に愛されていたことが分かるそうです。



博物館実習Ⅰの授業の様子 in 内山組

内山組では、掛け軸や茶道具、巻物などの資料の扱い方や展示方法について学びました。実際に宮城学院女子大学所蔵の資料を使いそれぞれの名称や展示する際に注意する点などを、実際に展示の練習を行う中で学びました。

特に難しいと感じたのは美術品を元の箱に戻す際に、決まった結び方をしなければいけないという点です。なかなかそれぞれの結び方に慣れることができず、何度も何度も結び方を練習しました。大学図書館を使った、資料についての調査学習なども行っています。



編集後記

こんにちは！『シンポジウムの種』編集部です。

今号では、1面にシンポジウム終了のお知らせと主な内容、2面に會田組と内山組の博物館実習の様子をご紹介します。

改めまして、学芸員課程シンポジウム「どうなる？どうする！博物館」が無事に終了しましたこと、開催にあたりご協力くださった皆様に、重ねて御礼申し上げます。各博物館の皆様への取材から始まり、各班に分かれての準備を通して、それぞれ学ぶことも多く大きな経験になったと思います。

『シンポジウムの種』は、次号で最終号です。読者の皆様には、本誌を通して学芸員課程について知っていただき、さらに興味をもっていただけましたら幸いです。

(石戸・小野寺・梶原・鈴木・藤澤)